

東京都病院協会 会報

東京都病院協会
医療共済制度 引受保険会社

MetLife
メットライフ生命

2019年(令和元年)12月25日

第272号

毎月1回 定価200円(会員購読料は会費含む)

発行所：一般社団法人東京都病院協会／発行人：猪口正孝 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-5 東京都医師会館404号室
TEL:03-5217-0896 / FAX:03-5217-0898 / URL: <http://www.tmha.net> / E-mail: tmha@mri.biglobe.ne.jp

第14回 東京都病院学会

2020年2月23日
アルカディア市ヶ谷

私たちはどう生きるか

— 持続可能な病院経営を考える —

学会概要のご案内

■全体プログラムの概要(予定)

※スケジュールは3面をご覧ください。

○第1・2会場(3階富士)

〈開会式〉午前9時～9時20分

〈基調講演〉午前9時20分～9時50分

「より良い社会を創る」

河北博文(東京都病院協会名誉会長・
河北総合病院理事長)

〈協会長講演〉

午前9時50分～10時10分
「東京都病院協会の会長に就任して—
取り組むべき課題—」

猪口正孝(東京都病院協会会長・
平成立石病院理事長)

平成成立石病院理事長

〈学会長講演〉

午前10時10分～10時30分
「持続可能な病院医療」

竹川勝治(学会会長・愛和病院理事長)

○第1会場(3階富士・東)

〈シンポジウム〉

午後1時10分～午後3時00分
「東京の民間病院における持続可能な
病院経営を考える：病院機能別に問題
を提起しよう！」

座長
高橋 泰氏(国際医療福祉大学赤坂
心理・医療福祉マネジメント学部
学部長)

竹川勝治(学会会長・愛和病院理事長)

基調講演
石川ベンジャミン光一氏

(国際医療福祉大学赤坂心理・医療
マネジメント学部教授)

コメンテーター

・急性期…猪口正孝

(平成立石病院理事長)

・回復期…東海林豊

(東京さくら病院院長)

・慢性期…越守道

(信愛病院院長)

・在宅…中村哲生氏

(永生会特別顧問)

〈特別講演〉

午後3時10分～午後4時10分

座長
竹川勝治(学会会長・愛和病院理事長)

「医療介護における持続可能な環境経
営とReaction」

古城資久氏(医療法人伯鳳会・社会
福祉法人あそか会理事長)

「気候変動問題と医療 持続可能な社
会の実現に向けて」

高村ゆかり氏(東京大学
未来ビジョン研究センター教授)

座長
田野倉浩治(永生病院事務部長)

座長
高橋 泰氏(国際医療福祉大学赤坂
心理・医療福祉マネジメント学部
学部長)

座長
竹川勝治(学会会長・愛和病院理事長)

座長
石川ベンジャミン光一氏

座長
田野倉浩治(永生病院事務部長)

講演

「東京総合医療ネットワークの始動と
今後の展開」

目々澤 肇氏(東京都医師会理事)

「医療情報分野へのブロックチェーン
技術の活用」

水島 洋氏(国立保健医療科学院
研究情報支援研究センター長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

座長
高嶋則子(岩井整形外科内科病院
副院長・看護部長)

看護部 診療看護師

○第3会場(5階 穂高・東)

〈環境問題検討委員会企画講演会〉

午前10時50分～11時50分

座長
「海洋プラスチック問題」

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

座長
篠原健一(公益社団法人東京都診療
放射線技術師会会長)

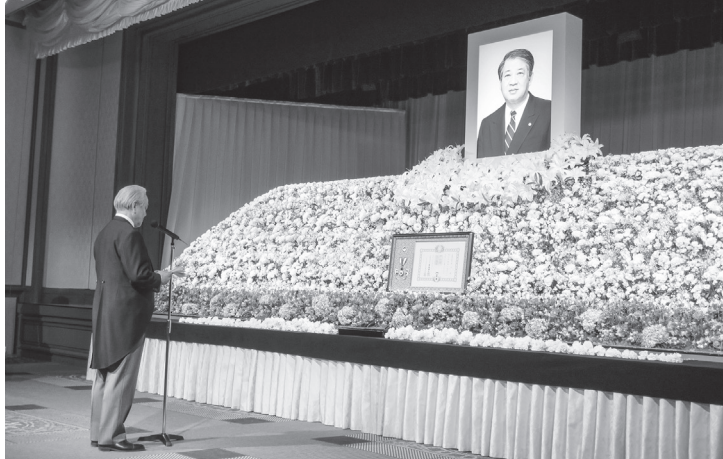


過去の学会の様子

野中博 前東京都医師会会長お別れの会

12月1日、故・野中博先生のお別れの会が開かれました。当日は横倉義武・日本医師会会長、尾崎治夫・東京都医師会会長、猪口正孝・東京都病院協会会長をはじめ約400人が出席し、故人の人柄をしのびました。尾崎会長は「先生は常に患者の視点に立ち、人間の尊厳を尊重することの重要性を論じていただいた」と述べました。

「都民のための医療に今後もまいります」と語りかけた尾崎治夫・東京都医師会会長



追加発言

有賀 徹氏(労働者健康安全機構理事長)

安藤高夫(永生病院理事長)

〈慢性期委員会企画〉

午後2時50分〜4時50分

「介護医療院開設の問題点と見守りプロジェクト」

座長

進藤 晃(大久野病院理事長)

【介護医療院開設の問題点】

講演

「地域医療型病院へと変化し続ける日の出ヶ丘病院・介護医療院」

原 淳市氏(日の出ヶ丘病院、

日の出ヶ丘介護医療院事務長)

パネルディスカッション

・原 淳市氏

・田中裕之(日本介護医療院協会副会長・陵北病院院長)

・村山正道(陵北病院事務長)

・吉田 真(大久野病院事務長)

【見守りプロジェクト】

講演

病院を中心とした街の作り方(「互助」をICTがサポートする発想で生まれた新しい地域連携)〜日常の支援と見守りそして防災へ〜

高原達也氏(一般社団法人セーフ

ティネットリンクエージェンシー代表理事)

○第4会場(5階穂高・西)

「ICT委員会企画講演会」

午後3時10分〜4時40分

「AIの神髄とAIの臨床応用によるタスクシフティング」

座長

大田 健(複十字病院院長)

講演

「人工知能の神髄、深層学習理論の身と意味を理解する」

鎌谷直之氏(株式会社スタージェン

医療人工知能研究所所長)

「AIへのタスク・シフティング」に

よる病院の働き方改革」

阿部吉倫氏(Ubie株式会社

共同代表取締役)

レポート

東京都病院協会診療情報管理委員会研修会

令和2年度診療報酬改定の動向

急性期医療を提供する医療機関は

いかに対応するか

日本血液製剤機構 事業本部事業戦略部参事 谷澤正明氏

東京都病院協会診療情報管理委員会は11月26日、「令和2年度診療報酬改定の動向」急性期医療を提供する医療機関はいかに対応するか」をテーマに研修会を開催した。講師は日本血液製剤機構 事業本部事業戦略部参事の谷澤正明氏。中央社会保険医療協議会(中医協)での議論の推移を紹介しながら、改定内容の方向性などを解説した。

焦点は働き方改革と機能分化・強化・連携

谷澤氏は令和2年度診療報酬改定について、厚生労働省が出している「I医師等の働き方改革の推進」「II身近で安心・安全かつ質の高い医療の実現」



谷澤正明氏

第14回東京都病院学会まで

アルカディア市ヶ谷にて開催

あと60日!

2020年2月23日(日) 9:00~17:00

- 休憩ルーム(4階飛鳥) 午前9時〜午後5時
コーヒーマシンの飲み物の無料提供(入退場自由)
東洋羽毛首都圏販売株式会社による企業展示
- 託児ルーム(6階貴賓) 午前8時30分〜午後5時30分
▽対象年齢:3歳〜未就学児まで▽定員:10名▽無料
※利用をご希望の方は事前にお申込みください。
お問合せ:☎03(5217)0896
✉gaktmha@xqb.biglobe.ne.jp

「III医療機能の分化・強化・連携」「IV効率化・適正化を通じた安定性・持続可能性の確保」という4つの指針のうち、とりわけIとIIIへの注意を促し、「働き方改革による負担軽減と医療の質向上を進めつつ機能分化を促進する」内容になるとの見通しを述べた。

3月にまとめた「医師の働き方改革に関する検討会報告書」では、医師の時間外労働規制について、2024年4月からは原則的に年960時間(A水準)とし、地域医療を確保するための暫定特例水準(B水準)と、集中的に技術を向上させるために適用される水準(C水準)は年1860時間とすることを求めている。

谷澤氏は「将来的にはA水準がC水準しか適用できなくなるし、C水準が適用されるケースは一部の医師で、1860時間も削減されていくだろう。A水準を軸に医師の体制を進めていかなければならない」と指摘し、診療報酬改定においても、この後押しになるような配点が進むとの予測を示した。

具体的には、同報告書では大学または400床以上、救急救命または救急搬送受入月間1000件以上、かつ外科系、産婦人科、小児科、救急医療に従事する医師の業務負担がとりわけ目立ったことから、「この分野で従事する医師を救う働き方改革を進めるだろうし、それを支援する点数が付くことが想像できる」と指摘した。注目点としては、検討会の中で「タスクシェア・シフトにより削減」が可能としている病棟、外来での取り組みを挙げ、外来では医師事務作業補助者の評価、病棟ではチーム医療、とりわけ薬剤師の業

第 14 回「東京都病院学会」会場スケジュール(予定)

メイン会場企画

第 1 会場		第 2 会場		休憩 ルーム (4 階 飛鳥)	第 3 会場		第 4 会場	
3 階 富士 (東)		3 階 富士 (西)			5 階 穂高 (東)		5 階 穂高 (西)	
9:00 ～ 9:20 開会式		9:20 ～ 9:50 基調講演「より良き社会を創る」河北博文 (東京都病院協会 名誉会長)						
9:50 ～ 10:10 協会長講演「東京都病院協会の会長に就任して～取り組むべき課題～」猪口正孝 (東京都病院協会 会長)		10:10 ～ 10:30 学会長講演「持続可能な病院医療」竹川勝治 (第 14 回東京都病院学会 学会長)			10:50 ～ 11:50 環境問題検討委員会講演会 テーマ：海洋プラスチック問題 【座長】篠原健一 (公益社団法人東京都診療放射線技師会 会長) 【講演】「プラスチックによる海洋汚染と化学物質曝露」高田秀重氏 (東京農工大学 教授)		一般演題	
10:40 ～ 11:50 事務管理部会企画「病院における ICT の利用促進」 【座長】田野倉浩治 (永生病院 事務部長) 【講演】「東京総合医療ネットワークの始動と今後の展開」目々澤 肇氏 (東京都医師会理事) 「医療情報分野へのブロックチェーン技術の活用」水島 洋氏 (国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター長、医療ブロックチェーン研究会 会長)								
13:10 ～ 15:00 シンポジウム 「東京の民間病院における持続可能な病院経営を考える病院機能別に問題を提起しよう！」 【座長】高橋 泰氏 (国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 学部長) 竹川勝治 (学会長・愛和病院 理事長) 【演者】石川ベンジャミン光一氏 (国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 教授) 【コメンテーター】 急性期：猪口正孝 (平成立石病院 理事長) 回復期：東海林豊 (東京さくら病院 院長) 慢性期：越永守道 (信愛病院 院長) 在宅：中村哲生氏 (永生会特別顧問)		13:10 ～ 15:00 看護管理部会企画 「人生最期をどう迎えるかー「平穏死」のすすめー」 【座長】高嶋則子 (岩井整形外科内科病院 副院長・看護部長) 切手純代 (南多摩病院 看護部長) 【講師】石飛幸三氏 (芦花ホーム常勤医)			13:10 ～ 14:40 医療安全推進委員会企画 「医師法第 21 条の解釈について」 【座長】伊藤雅史 (等潤病院 理事長・院長) 【講演】「医師法第 21 条の解釈の確立と関連制度との位置づけ」小田原良治氏 (医法協常任理事) 【追加発言】有賀 徹氏 (労働者健康安全機構理事長) 安藤高夫 (永生病院 理事長)		一般演題	
15:10 ～ 16:10 特別講演 【座長】竹川勝治 (学会長・愛和病院 理事長) 【講演】「医療介護における持続可能な環境経営と RReaction」古城資久氏 (医療法人伯鳳会 理事長) 「気候変動問題と医療ー持続可能な社会の実現に向けて」高村ゆかり氏 (東京大学未来ビジョン研究センター 教授)		15:10 ～ 16:50 急性期医療委員会セッション 「急性期医療におけるタスク・シフティング、タスク・シェアを考える」 【座長】有賀 徹氏 (労働者健康安全機構 理事長) 三浦邦久 (江東病院 副院長) 【講演】「業務委託によるタスクシフト」清水芳輝氏 (日本ステリ株式会社 副本部長) 「医師の長時間・過重労働とタスクシフト、タスクシェアー「勤勉は美德、過去のものか?」横田美幸氏 (がん研有明病院 副院長) 「二次救急外来でのタスクシフト・タスクシェア～診療看護師としての働き方と合意形成～」若月優子氏 (板橋中央総合病院 看護部 診療看護師)			14:50 ～ 16:50 慢性期医療委員会企画 【座長】進藤 晃 (大久野病院 理事長) ①介護医療院開設の問題点 【講演】「地域医療型病院へと変化した続ける日の出ヶ丘病院・介護医療院」原 淳市氏 (日の出ヶ丘病院事務長) パネルディスカッション ・原 淳市氏 (日本介護医療院協会副会長) ・田中裕之 (日本介護医療院協会副会長) ・村山正道 (陵北病院 事務長) ・吉田 真 (大久野病院 事務長) ②見守りプロジェクト 【講演】病院を中心とした街の作り方 「互助」を ICT がサポートする発想で生まれた新しい地域連携～日常の支援と見守りそして防災へ～高原達也氏 (セーティネットリンケージ代表理事)		15:10 ～ 16:40 ICT 委員会企画 (AI 研究会) 「AI の神髄と AI の臨床応用によるタスクシフティング」 【座長】大田 健 (榎十字病院 院長) 【講演】「人工知能の神髄、深層学習理論の中身と意味を理解する」鎌谷直之氏 (順スタージェン代表取締役 会長) 「AI へのタスク・シフティング」による病院の働き方改革 阿部吉倫氏 (Ubie 株式会社代表取締役)	
閉会挨拶：横山 孝 (副学会長)								

ランチョンセミナー (12:00～13:00)

第 3 会場	第 4 会場	第 5 会場	第 6 会場	第 7 会場	第 8 会場	第 9 会場
5 階 穂高(東)	5 階 穂高(西)	5 階 大雪(東)	5 階 大雪(西)	6 階 阿蘇(東)	6 階 阿蘇(西)	6 階 伊吹
株イントラスト／東京海上日動火災保険株 「民法改正(連帯保証)と医療費未収等の対策について」 鷲尾 誠氏(銀座第一法律事務所 弁護士) 中村育弘氏(株イントラスト)	株ウィ・キャン 「「クレーム対策」を科学する(良い患者を集めるために)」 濱川博招氏(株ウィ・キャン 代表取締役)	オリックス・クレジット株 「「病院経営の健全化支援について」 石黒智洋氏(オリックス・クレジット 株経営企画部新規事業開発チーム課長)	東京海上日動火災保険株／マージュジャパン株 「医療機関における勤務環境改善への取り組み ～「かち」残る組織になるう～」 中島美津子氏(東京医療保健大学 / 大学院看護学研究科 教授)	東京ガス株 「明日から使える! 無理なく始める病院 BCP」 佐々木勝氏(日本大学客員 教授)	日本光電工業株 「最新 AED の機能と遠隔管理～より多くの命を救うための進歩～」 林 怜史氏(日本光電工業株 社会医療機器事業本部第二技術部四課リーダー(保長))	ホスピタルコンプライアンスマネージメント ジャパン株 「今始める病院のデジタル化マネージメントセキュリティの強化からー」 【座長】山口武兼(東京都保健医療公社理事) 【講師】小山 勇氏(埼玉医科大学国際医療センター 名誉病院長)

務評価が進むとの見方を示した。

医師事務作業補助はさらなる充実も

医師事務作業補助体制加算は前回の改定で 50 点の上乗せがあり、15 対 1 で「加算 1」が 920 点、「加算 2」が 860 点などとなっているが、「今や急性期病院にとって、15 対 1 や 20 対 1 の事務補助員配置は当然と言える。現在の点数であれば、患者さんの回転のよい病院であれば担当する事務量から考えても、人件費分をまかなえるのではないか」と指摘した。「500 床規模の急性期病院で平均在院日数が 2 週間程度と仮定した場合、1 か月 1000 ～ 1200 人の退院患者が出ることになる。15 対 1 配置で月あたりのおおよそ 920 万 ～ 1100 万円の報酬を得られるわけだ。医師事務作業補助スタッフ 35 人程度を雇用することになるが、それでも十分、人件費をまかなえる額になるだろう」と説明した。

配置する部門については「医師の疲弊が目立つ外来に先行投入し、検査・次回予約の代行入力などを担っていただくイメーজだ」と語った。

あわせて看護師の勤務環境改善にも言及し、なかでも急性期一般病棟における看護職員の夜間配置に対する評価を注視するよう呼びかけた。

前回の改定では看護職員夜間配置加算が 15 点上乗せされるなど、看護師の業務で特に負担が大きい夜間病棟への評価が手厚くなっており、これによって増収に結びついた病院が多数ある。令和 2 年度改定でもこの傾向は続くとの見方を示し、現在は「夜間 12 対 1 配置加算」が最も高いが、「10 対 1 体制

加算の新設を日本看護協会も要望しており注目される」と述べた。

チーム医療の推進では薬剤師業務がポイント

病棟業務の負担軽減ではチーム医療の推進、とりわけ薬剤師へのタスクシフト・シェアの推進を挙げた。日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会で構成する四病院団体協議会が 7 月に出した提案で、タスクシフティングの例として医師との協働による薬剤師業務の拡大が筆頭に挙がっていることを挙げる一方で、薬学教育 6 年制卒業生の就職先が薬局 36.3%、病院・診療所 23.3%と、新卒薬剤師が病院を選んでいない実情に言及。一因として病院薬剤師の給与が低いことがあるといった議論が中医協で聞かれたことなどを紹介し、「①病棟薬剤師の業務拡大、②診療報酬による評価、③それを給与引き上げの原資とする——といった道筋も考えられる」と述べた。

必要度の項目見直しは

また機能分化・連携・強化については、急性期一般入院基本料における「重症度、医療・看護必要度」(以下、必要度)の見直し内容への注意を促した。

まず、現場の看護師等が評価票に記録する「必要度Ⅰ」は、記録する行為自体は医療・看護行為とは無関係で、かつ時間外業務を生みやすく、「働き方改革」に逆行することから、早晚、DPC データを用いる「必要度Ⅱ」が原則になるとの見方を示し、「必要度Ⅰ」の病院は早めに『必要度Ⅱ』に移

私の医道

武見 敬三
参議院議員

第7回

父は保険者側を巻き込んだ官僚主導の改革に激怒し、古井喜実厚生大臣のことを「アイヒマン※」と呼び捨て、厳しく批判していた。一方、当時のメディアは医師のストライキに対して批判的な立場を取り、ストライキを主導した父に對して厳しい批判を浴びせ、「喧嘩太郎」という、異名まで付けるところとなった。

日本医師会は、日本医師会の意向にそぐわない7月の中央社会保険医療協議会(中医協)の答申に強く反発をし、8月1日からの保険医総辞退を日本歯科医師会と決めていた。内閣改造にもない、この時の厚生大臣は古井氏から灘尾弘吉氏に代わっており、政調会

1961年 一斉休診②

長は田中角栄氏であった。保険医総辞退を回避しうるかは田中政調会長の調整にかかっていた。父は、田中政調会長と頻りに会っていたが、最終的に田中政調会長は白紙委任状を父に渡した。この白紙委任状には、「自由民主党政調会長 田中角栄」としての印が押されており、書かれる内容については全て委ねられていた。父は、この政治的なメッセージに對して、左記の四項目をもって対応した。

- (1) 医療保険制度の抜本的改正
- (2) 医学研究と教育の向上と国民福祉の結合
- (3) 医師と患者の人間関係に基づく自由の確保
- (4) 自由経済社会に於ける診療報酬制度の確立

これは皆保険制度の中で約3500ある保険者を統合することによって、

行すべき」と語った。そのうえで、各項目についての見通しを解説した。

A項目「モニタリング及び処置等」については「働き方改革との関連も踏まえれば、『専門的な治療・処置』についてはE/Fファイルでカバーできる項目に変えてくると考えられる。また現在は診療科間で評価に偏りが出ているので、これも是正する可能性が高い」となどと指摘した。

B項目「患者の状況等」については、「B14診療・療養上の指示が通じる」「B15危険行動」に該当する患者の受け入れが高く評価されている点が中医協で議論になった状況を紹介した。

これを踏まえて18年度改定で新設された「B14」又は「B15」に該当する患者であつて、A得点が1点以上かつB得点が3点以上の「行方」に言及した。「患者像で言うと、認知症の患者さんで心電図モニターの管理を行っていただければ、『該当患者』ということになり、急性期病棟のあり方としていかなものかという議論が起きている。さすがに心電図モニターの管理を外すことはないと考えられるが、心電図モニター管理の評価にあたって何らかの前提条件を設けることはあるかもしれない」

C項目については、中医協の議論で「必要度Ⅱの評価対象外である手術の

うち、入院で実施する割合が高い手術について、例えば、入院が100%かつ年間件数や点数が一定以上の手術」を厚労省が提示したことに着目、具体的に100%入院実施手術、年間1000件以上、5万点以上の手術を追加する可能性を示唆した。こうした流れを踏まえて「救急搬送を積極的に受け入れ、手術をやるのが急性期に残るための条件となるのではないかと述べた。

急性期医療を提供する医療機関の定義として、

▽重症患者(救急・がん・難病等)を受け入れ

▽高度な集中治療(手術・ICU・新規技術・7対1体制等)を行い

▽安全な療養環境(医療安全・ASST等)のもと

▽早期離床・復帰(リハ・入退院支援等)をめざす

——とし、「ただし人口減少と高齢化の影響で該当患者は減少する」とも付け加えた。

「地域の中での自院の役割・機能、人口動態、疾病の変化、他院との立ち位置をよく見きわめ、データに基づく話し合いで地域医療構想を達成することが求められる」と呼びかけた。

会報270号で結果を発表した「指差し唱和運動標語コンテスト」では、残念ながら入賞はならなかった作品の中にもすばらしいものが多く寄せられましたので、会報で紹介しします。

確認は いつも自分が 最後の誓 (医療法人財団圭友会 小原病院)

確認を やったつもりは 命とり (一般社団法人衛生文化協会 城西病院)

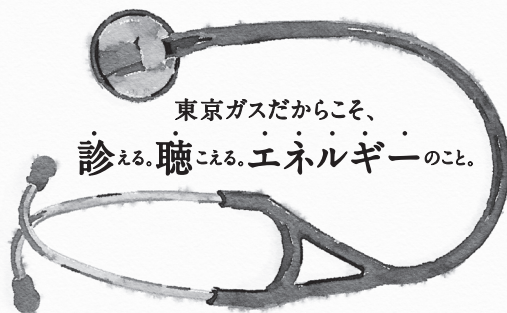
すぐ確認! 心に浮かんだ そのはてな (医療法人社団好仁会 滝山病院)

「確認」は、 今やる! 一番星になれ! (医療法人社団碧水会 長谷川病院)

指差し唱和運動標語のご紹介

エネルギーの悩み、お聴かせください

東京ガスは医療施設へのエネルギー供給を通じて、医療業界に深く関わってきました。医療施設を取り巻く環境が変化している中で、災害対策・経営効率化・地域への貢献などの課題に對して、東京ガスは培ったノウハウを活かし、お客さまとともに解決策を探していきます。



東京ガスの電気は顧客満足度第1位!

2017年度JCSI(日本版顧客満足度指数)調査
電力小売部門
※調査対象5社(ENEOSでんき・auでんき・大阪ガス・J:COM電力・東京ガス)

ぜひ、下記までお問い合わせください

東京ガス株式会社

都市エネルギー事業部 公益営業部

東京都港区海岸1-5-20

TEL.03-5400-7735